



平塩の岡から見た市川地区中央部
昭和 36. 7 年頃

歴史と文化、水路とヒヤのまち

甲州・市川のまちづくり読本

市川地区中央部まちづくり懇談会
山梨県西八代郡市川三郷町



平塩の岡から見た市川地区中央部
平成 26 年 4 月

はじめに

私たちのまち市川地区中央部は、山梨県西八代郡市川三郷町の中心市街地です。

山裾と清流に囲まれ、町屋、土蔵、屋敷や庭、社寺、昭和期のモダンな建物、ゆつたりと屈曲する道路、幅が狭いヒヤ（路地）、昔は紙漉きにも使っていた水路、辻々には道祖神や小祠など、どこか気持ちがほっとする街並みが伝わっています。和紙・花火・書やお祭りなど地域文化も息づいています。時間をかけて育まれた豊かな資産を受け継いで、新しい時代にもふさわしい街並みを育てていくことが、重要になっています。

私たち住民有志は、町のよびかけに応えて、平成十四年二月に「市川地区中央部まちづくり懇談会」を結成し、大学や専門家の支援を受けながら、住民と行政とで協働してまちづくりを進めてきました。懇談会からの提言をもとに、まちづくり事業が進み、今日ではいくつもの成果が生まれています。

まちづくりの原動力は、地域住民のまちを大切に作る気持ちであります。そのために今回、まちの案内図を作成するとともに、まちの情報をまとめてみました。ご一読いただき、改めてこのまちの良さを知っていただければ幸いです。

平成二十七年三月

市川地区中央部まちづくり懇談会 会長 有泉一征・会員一同



市川三郷町の位置

目次

はじめに

市川地区中央部まちの案内マップ
市川地区中央部のまちづくり体制

第一章 歴史のまち、甲州市川

(一) 市川の位置と地勢

(二) 市川のなりたち

(三) 市川大門、江戸期の賑わい

(四) 明治初期に始まる近代産業

コラム一 「青洲文庫」

コラム二 青洲堤と三川落合

コラム三 明治二十年の市川大門

第二章 市川代官所の支配

(一) 市川代官所の成立と支配機構

(二) 代官・村役人・郡中惣代等の職務

コラム四 市川代官銘々録

コラム五 御陣屋の建物等の変遷

28 23 18 15

14 12 10 7 3 2 1

第三章 市川の地名考

(一) 市川の発祥

(二) 市川の地名のいわれ

コラム六 夢窓国師と平塩の岡

コラム七 「市川八景」

第四章 交通枢要の地、市川

(一) 河内路（駿州往還）

(二) 市川道

(三) 文化三年の村絵図の道

(四) その他の道路・近代の道路

(五) 渡し舟と橋

(六) 舟運・鉄道・二つの駅

第五章 紙のまち市川

(一) 紙業の起源

(二) 肌吉漉衆（御用紙漉）

(三) 明治以降の紙業の展開

コラム八 市川大門の花火

62 60 55 54

51 49 47 46 44 42

40 37 31 31

第六章 百祭り・市川のお祭り暦

- (一) 正月から春のお祭り
- (二) 初夏から秋のお祭り
- (三) 年末に向けて

コラム九 火防せの神、秋葉さん

コラム十 市川の道祖神

コラム十一 富士講と忍野八海再興

第七章 まち中に水が流れる市川

- (一) 水源と水路
- (二) 生活、文化との水のつながり
- (三) 町を守る水
- (四) 生業・産業と水路
- (五) 水の楽しみ方

コラム十二 まちなかでホタルが光るまち

第八章 市川の街並みの魅力

- (一) 町の骨格の移り変わり
- (二) 通りの街並み・横丁の街並み
- (三) 街並みの変化・保存再生に向けて

コラム十三 ヒヤ（路地）の話

コラム十四 中央通りの今昔

10310210095 91

90 88 86 83 83 82

78 76 73 72 70 66

第九章 みんなですすめるまちづくり

- (一) 市川地区中央部まちづくりの歩み
- (二) 実現した様々なプロジェクト
- (三) 「住まいのデザインノート」の作成
- (四) これからのまちづくり

巻末資料 江戸末期の市川大門村並図

112 111110107106

おわりに

市川地区中央部まちづくり懇談会会員（執筆分担）
参考資料一覧



図2 市川地区中央部まちの案内マップ（平成25年度設置）

市川地区中央部のまちのよいところをもっと知ってもらおうということで、懇談会のメンバーで2年かけて話し合って案内看板をつくりました。2つの駅前と中央通り駐車場（地図中央部トイレマーク）に設置しています。

市川地区中央部

まちの案内マップ



市川本町駅前の案内マップ



市川地区中央部のまちづくり体制

まちづくり体制
(平成十三〜二十八年)

市川地区中央部まちづくり事業は、旧市川大門町時代の平成十四年二月の「まちづくり通信」の全戸配布からスタートし、住民参加型のまちづくりとして、まちづくり塾等の各種勉強会なども開催される中、懇談会からのまちづくり提言により、全国都市再生モデル事業として組織の強化が図られることとなっていた。（「第九章 みんなですすめるまちづくり」一〇六頁参照）

さらに、平成十八年度には推進体制の再編も行われ、官民一体となった取り組みが実施され続けている。現体制としては、懇談会を実施主体として位置づけ、まちづくり研究会の下、まちづくり連絡会議を設置。これは、3つのPT（プロジェクト）と4つのLN（ライン）から形成されている。

(1) 市川地区中央部まちづくり研究会

市川地区中央部のまちづくりについて、町の各課を中心に、学識者・町議・県・懇談会会長・コンサルタントで構成し、町としての意思決定をする。

(2) まちづくり連絡会議

まちづくりプロジェクトチーム・まちづくりラインの全体の進行管理を行う。

(3) まちづくりプロジェクトチーム

市川地区中央部まちづくり推進計画に掲げる事業の実現に向けて検討する組織。職員・住民で構成され、部門ごとに、「中央通り・地域活性化PT」「狭あい道路・住まいづくりPT」「まちの資源活用PT」という3つのプロジェクトチームがある。

(4) まちづくりライン

町の担当課・係により推進する「街なみ環境整備事業LN」「拠点運営LN」「狭あい道路拡幅整備LN」「防災LN」という4つのラインに分かれている。

(5) 市川地区中央部まちづくり懇談会

地区の住民有志で構成する、まちづくり活動組織。
通信編集部・・・懇談会の有志からなり、市川地区中央部まちづくり通信の発行を担当する。

